

はじめに

帯状疱疹は、水痘(水ぼうそう)と同じウイルスを原因として発症する皮膚の病気です。

子どものときに感染した水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体内に潜伏していて、ストレスや過労、加齢などで免疫力が低下した際に、ウイルスが再び活性化して帯状疱疹を発症します。発症すると、皮膚がピリピリするような痛みを感じ、その部分に赤みや水疱形成などの皮膚症状が現れます。皮膚症状が治った後も、帯状疱疹後神経痛と呼ばれる痛みが長い間続くこともあります。

帯状疱疹ワクチンを接種することで、帯状疱疹の発症を抑制し、重症化や後遺症の予防につながるとされています。接種を希望される人は、説明書をよく読み、ワクチンの有効性と副反応等を十分理解した上で、接種しましょう。

◆ワクチンの種類

帯状疱疹ワクチンには生ワクチン(阪大微研:乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」)、組換えワクチン(GSK社:乾燥組換え帯状疱疹ワクチン「シングリックス」)の2種類があり、接種回数や接種方法、接種費用、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なります。ワクチンによっては病気や治療によって、接種できない、もしくは注意が必要な場合があります。いずれのワクチンも、帯状疱疹やその合併症に対する予防効果が確認されています。

◆ワクチンの特徴

ワクチン種類		乾燥弱毒生水痘ワクチン 【ビケン】	乾燥組換え帯状疱疹ワクチン 【シングリックス】
ワクチンの添付文書 (PMDA)			
接種方法		皮下に接種	筋肉内に接種
接種回数		1回	2回
接種間隔		他の生ワクチンを接種した場合は、 27日以上あける	2か月以上あけて2回接種
接種費用(自己負担金)		4,000円	10,000円×2回
接種できない人		病気や治療によって、免疫が低下している人は接種できません。	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が必要な人		輸血やガンマグロブリンの注射を受けた人は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた人は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種するため、血小板減少や凝固障害を有する人、抗凝固療法を実施されている人は注意が必要です。
効果	接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
	接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

※合併症の一つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

※いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。

(出典:厚生労働省ホームページ「帯状疱疹ワクチン」に掲載中の情報提供資料「説明書」)

(出典:令和7年4月7日時点での独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページに掲載中の添付文書)

◆ワクチンの副反応

令和7年3月5日時点で公表されている、ワクチンの添付文書に記載されている重大な副反応（ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎）以外の副反応は次のとおりです。

ワクチン種類	乾燥弱毒生水痘ワクチン【ビケン】	乾燥組換え带状疱疹ワクチン【シングリックス】
過敏症		蕁麻疹、血管性浮腫
皮膚	発疹、紅斑、そう痒	そう痒症、発疹、紅斑、多汗症
呼吸器		口腔咽頭痛、咳嗽
局所部位 (注射部位)	発赤(44.0%)そう痒感(27.4%)熱感(18.5%) 腫脹(17.0%)疼痛(14.7%)硬結(13.5%)	疼痛(79.1%)、発赤(37.4%)、腫脹(24.2%)、そう痒感、注射部位反応、発疹、炎症、硬結、関節痛、内出血、浮腫、不快感、熱感
消化器		胃腸症状(悪心、嘔吐、下痢、腹痛)(12.0%)
精神神経系		頭痛(28.3%)、浮動性めまい、不眠症、傾眠、嗜眠
筋・骨格系	関節痛、筋骨格痛	筋肉痛(36.9%)、関節痛、四肢痛、背部痛、筋骨格痛、頸部痛
感染症		鼻咽頭炎、気道感染、インフルエンザ感染、ヘルペス(口腔または単純ヘルペス)感染
その他	倦怠感、動悸、疼痛、小脳性運動失調	疲労(34.6%)、悪寒(21.4%)、発熱(16.7%)、倦怠感、疼痛、インフルエンザ様疾患、無力感、冷感、熱感、食欲減退、回転性めまい

◆予防接種を受けることができない人

1. 明らかに発熱（通常 37.5℃以上）がある人
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかである人
3. 過去に带状疱疹ワクチンの成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある人
4. その他、医師が不適当な状態と判断した人

乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」のみ

- ・副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤などの治療を受けており、明らかに免疫抑制状態の人
- ・先天および後天性免疫不全状態の人
(例えば、急性及び慢性白血病、リンパ腫、骨髄やリンパ系に影響を与えるその他疾患、HIV 感染または AIDS による免疫抑制状態、細胞性免疫不全などによる)

◆予防接種を受ける前に医師への相談が必要な人

1. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患がある人
2. 予防接種後2日以内に発熱したことがある人、または全身性発疹などのアレルギーを疑う症状になったことがある人
3. 带状疱疹ワクチンの成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある人
4. 過去にけいれんを起こしたことがある人
5. 過去に免疫不全の診断を受けている人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
6. 血小板が少ない人、または出血しやすい人

◆接種を受けた後の注意点

1. 急なアレルギー反応が起こることがありますが、このような副反応は30分以内に現れることが多いので、症状が出た時すぐ対処できるよう病院と連絡が取れるようにしておきましょう。
2. 入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすらないようにしましょう。
3. 接種当日は、激しい運動や飲酒を避けてください。
4. 接種後24時間は、体調の変化に十分に注意してください。

◆予防接種健康被害救済制度

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。带状疱疹ワクチンの接種についても、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく救済を受けることができます。ご相談は、市健康推進課までお問い合わせください。